

新婚家庭が増えるのを願いたい  
これからもずっと続けたい

蘭牟田麓青壮年団

よしなが よしろう  
団員 吉永 義郎 さん(50)

この行事は一時期途絶え、昭和50年に当時の壮年団が復活させてからは蘭牟田麓青壮年団が中心になって行っています。新婚家庭が減り、宿探しは厳しいですが、新婚家庭がない年は新婚のお子さんのいる家などをお願いして、一度も休まずに続けています。開催日は麓地区の総会の日と決められ、平日の場合は仕事を休んで行いますが、私たち青壮年団もこの行事が大好きで、毎年楽しみに参加しています。



← ヘグロを付けるためのヘノコ棒

## 田の神戻し

薩摩川内市／祁答院町蘭牟田麓地区

### 大真面目に大人が楽しむ 田の神さあのお引っ越し

手に飯杓めしげを持ち、白く化粧した愛嬌のある「田の神さあ」は鹿児島独特の神様です。春たけなわの4月10日、祁答院町の南西部、田園が広がる蘭牟田麓地区では、田の神さあが新婚家庭から次の新婚家庭へ引っ越し「田の神戻し」が行われます。預かった家では田の神さあを床の間に祭り、大切にします。そして一年後、別の家へと移るのです。「田の神さあを預かる家は宿しゆくと呼ばれます。旧宿みやうじゆくから新宿しんじゆくへと移す「田の神戻し」は、150年以上前から続く、五穀豊穰、無病息災、子孫繁栄を祈る伝統行事です」と語るのは、蘭牟田麓青壮年団団員の吉永義郎さん。吉永さんも新婚時代には宿主を経験し、その後、長男を授かるというご利益を頂いたそうです。

「田の神戻し」は引っ越しの準備から始まります。朝早く、地区の青壮年が旧宿に集まり、青竹を切つて籠かごを編み、田の神さあの化粧を直し、色とりどりの花や「田の神もち」を包んだ藁わら筒などを飾り付けて準備は完了。引っ越し先

鹿児島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな伝統行事祭りが残っています。今回はそんな伝統行事の中から薩摩川内市祁答院町に伝わる「田の神戻し」をご紹介します。

へ向かう籠の後は、神様の分身として踊る青年たちが、煤すすを水で溶かしたヘグロで顔を真っ黒に化粧し、派手な衣装姿で続きます。

道中、レンゲの咲き誇る田んぼや公民館などで奉納される田の神舞かみまいが一番の見どころです。鉦かねとホラ貝の音に合わせ、田の神さあの周りをにぎやかに舞い、その後、見物客たちにヘノコ棒と呼ばれる棒でヘグロを付けて回ります。ヘグロをつけられると一年間健康で過すごせるとされ、奉納する先々で悲鳴や笑い声がかかります。大人たちが真面目に楽しむ「田の神戻し」は、生命が動き出す春にふさわしい、ユニークな伝統行事です。



### 薩摩川内市

薩摩川内市は、平成16年に川内市、樋脇町、入来町、東郷町、祁答院町、里村、上甕村、下甕村、鹿島村が合併して誕生した総人口99,138人(平成26年1月1日現在)のまちです。薩摩半島の北西部に位置し、東シナ海に面した変化に富む海岸線、市街地を流れる一級河川(川内川)など、多様で美しい自然が特徴です。写真は「藤川天神」。藤川天神は学問の神様・菅原道真公を祭る神社。境内の梅園には臥した竜のように幹を這わせる梅の木が150本あり、2月から3月にかけて観梅客の目を楽しませてくれます。